

J A士幌町400億円堅持 肉牛苦戦も畑作伸び 販売高 6年連続

2021年6月10日

J A士幌町（國井浩樹組合長、正組合員625人）の通常総会が10日、同J Aで開かれた。2020年度の農畜産物販売高（交付金・共済金を含む）は444億2,000万円（前年度比2.9%減）で、6年連続で400億円の大台を突破した。

新型コロナウイルスの感染防止のため、書面議決を中心に開催。委任状を含め566人が出席した。

酪農は粗飼料の品質が良く、生乳量は1.6%増の9万7,292トンで過去最高を記録。販売高は0.1%減の96億5,000万円。

肉牛はインバウンド需要の消失で高級牛肉の枝肉相場が急落し、7.2%減の227億5,000万円となった。畜産全体は5.1%減の330億1,000万円。

畑作は4.2%増の114億1,000万円。ビート、スイートコーンが順調に生育し、平年を上回る実績だった。ジャガイモは干ばつによる着粒数の減少で空洞の発生などが目立ち、製品歩留まりが大幅に低下した。当期末処分剰余金は16億2,000万円。

國井組合長は「組合設立からの基本理念である堅実第一主義を貫き、さらに飛躍できるよう努める」と述べた。

取扱高5.5%減 126億円 新型コロナで消費減退 J A本別町

2021年6月11日

J A本別町（佐野政利組合長、正組合員476人）は10日、農協会館で第43回通常総会を開いた。新型コロナウイルスのまん延により農畜産物の消費が減退した影響を受け、2020年度の農産・畜産両部門の総取扱高は前年度比5.5%減の126億2,200万円だった。

農産部門の取扱高は同5.1%減の51億4,500万円。小麦と豆類は平年並みの収量だったが、コロナ禍における消費の落ち込みから価格が低迷したことが響いた。バレイショは平年並み、ビートは平年を上回ったが糖分が昨年度を下回った。飼料作物は天候に恵まれ収量、品質ともに良好だった。

酪農・畜産は個体販売価格が厳しい市況だったこともあり、畜産部門の取扱高は同5.8%減の74億7,800万円。

生乳取扱高は前年度比1.0%増の41億7,800万円と堅調だった。

今年度の事業計画では、1988年に建てられ老朽化していた小麦乾燥施設の設備更新を含む改修工事に7億2,600万円などを計上した。効率的な荷受け態勢を構築し、来年度から受け入れを始める。

総会は新型コロナ対策として、主に書面議決とし、委任状などによる出席は17人、書面出席は353人。総会で、佐野組合長は「今年度から商品開発課を設け、アドバイスや支援をいただきながら本別らしい経営をしていく」とあいさつした。

農業生産額 212億円 0.8%減も過去2番目 J A帯広かわにし

2021年6月11日

J A帯広かわにし（有塚利宣組合長、正組合員748人・法人）の通常総代会が11日、帯広市内の同J A本所で開かれた。2020年度の農業生産額は、19年度比0.8%減の212億2,922万円。過去2番目に多い農業生産額となった。

ナガイモの集出荷施設を増強するためのコンテナ導入に関わる議案（事業費9,520万円）を承認。今秋にもコンテナ4,000基を確保し、自動温度制御熱交換器を導入する。安定した品質確保と、国内需給調整のための輸出拡大を図る。

農作物は、小雪による土壌凍結や5月の干ばつ、6月下旬以降の低温・過湿、9月の多雨・日照不足で収穫作業や小麦の播種（はしゅ）に影響が出たが、おおむね平年作となった。

部門別では、小麦は平年並みに推移したが、豊作だっ

た19年度比19.1%減の30億3,146万円。ジャガイモは2.2%減の22億448万円。また、ナガイモは春掘りの一部に凍結被害がみられたが、5.3%増の21億3,664万円。ビートは11.3%減の19億5,270万円、豆類は増減なしの17億5,227万円など。

生乳販売は規模拡大や良質な粗飼料の確保で増産基調に推移し、14.4%増の33億6,938万円。畜産合計は6.8%の88億3,424万円。

経常利益は7億7,607万円（19年度比9.2%減）、当期末処分剰余金は8億8,251万円（同比9.7%減）を計上した。